

平成 2 4 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	78	学校名	県立下館工業高等学校			課程	全日制		学校長名	中島栄一						
教頭名	谷島重穂							事務(室)長名	鈴木文夫							
教職員数	教諭	47	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	11	事務職員	4	技術職員等	2	計	73
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	機械科		76	4	79	0	79	0	0	0	234	4	6			
	電気科		40	0	38	0	39	0	0	0	117	0	3			
	建設工学科		32	8	24	14	21	18	0	0	77	40	3			
電子科		75	5	73	7	71	8	0	0	219	20	6				

2 目指す学校像

- 1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。
- 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。
- 3 生徒の希望する進路の実現を図り、地域から信頼される進学も就職も可能な選択肢の広い学校。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	大学進学希望者、就職希望者ともに各教科・科目の基礎学力を更に高める必要がある。また、工業科の実習やものづくりを通して技能・技術の習得が必要である。	生徒の興味関心を高める授業や個別指導により学力向上を図る。コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力をつける。
進路指導	進学希望が4割あり、その半数以上が4年制大学を志望している。就職を希望する生徒は、主に技能・技術職の分野へ確実に就職している。	多様な進路希望に対応できる指導体制の充実を目指す。確かな学力と技能・技術を評価されての進路実現を図る。
生徒指導	服装等の校則違反者は全体的に減少傾向であるが、日常生活におけるマナーの大切さなどの意識をしっかりと持てるよう呼びかける必要がある。	全職員による根本的な指導により生徒の意識改革を図る。挨拶・言葉遣いがきちんとできるようにする。
特別活動	運動部中心に活発な活動を展開している。毎年いくつかの部で全国・関東大会に出場していて、公立学校の中では総合的に上位の成績を上げている。	特色ある学校づくりの観点から工業高校特有の活動等の活性化に取り組む。自主的な活動を重視する。

4 中期的目標

- 1 生徒一人一人の学力の向上を図るために、授業や実習の工夫・改善に努める。
- 2 専門性を高めるために、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、資格取得の実績を伸ばす。
- 3 進路希望を実現するために、生徒の能力や適性に応じた進路指導体制の充実を図る。
- 4 基本的な生活習慣の確立に努め、高校生らしい態度や行動の育成を図る。
- 5 生徒の心身の成長を促すために、特別活動の充実を図り、安心・安全な環境づくりを進める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基本的な学力の定着及び個別指導による学力の向上	<ol style="list-style-type: none"> ① 朝のプリント学習や定期的な基礎力診断テストをおし、高校生として必要な一般常識を身につけさせる。 ② 教科ごとに、生徒一人一人の的確な学力診断を行い、それに応じた授業や実習の工夫・改善に努める。
2 資格取得による生徒の様々な能力の伸長と、特色ある個性の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 資格年間計画表を作成し、個々の生徒が様々な資格取得に挑戦できる環境作りをする。 ② 生徒の資格取得の実現を目指し、課外や補講など最大限の援助を心がけ、専門性を高める。
3 進路指導システムの構築による生徒の進路希望の実現	<ol style="list-style-type: none"> ① 3年間の進路指導システムを構築し、生徒の多様な進路希望に対応する。 ② 生徒及び保護者との面談をおし、学校と家庭が連携することで、生徒の進路実現を目指す。
4 心の教育の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 高校生らしい生活態度について指導するとともに、職員および保護者が連携してさわやかマナーアップ運動や朝のあいさつ運動を推進し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努める。 ② 道徳教育や読書教育をおし、自己を見つめるとともに、他人及び社会について深く考え、思いやる心を育成する。
5 特別活動の充実と安全教育の徹底	<ol style="list-style-type: none"> ① 部活動や委員会活動など生徒が自主的に活動できる環境を整え、心身ともに成長し活動できる機会を多くする。 ② 各種安全教育を徹底し、事故の未然防止に努め、事故発生ゼロを目指す。